

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
1. 大学と高校の有機的な接続・連携の強化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。</li> <li>高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。</li> </ul>	<p>(取組1) 高大連携フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラムの開催によって、高校生がスムーズに大学生活に移行できるように、高大接続の問題点について高校・大学の双方が継続的に議論し、双方の学びの場を改善していく。</li> <li>特に大学入試改革や新学習指導要領の実施といった背景を踏まえて、大学と高校間で検討を進めるべきテーマについて、関係者のより積極的な情報交換を促す。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>開催回数：1回以上／各年</p> <p>※数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用割合：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年</li> <li>参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>(第1回) 10/13 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用割合：18/39校 (46.2%)</li> <li>参加者比率：大：89.2% (58人) 高：10.7% (7人) 計65人 (その他を含むと計75人)</li> </ul> <p>(第2回) 3/6 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用割合：13/39校 (33.3%)</li> <li>参加者比率：大：88.6% (39人) 高：11.4% (5人) 計44人</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度は「探究学習」をテーマとして、各回で観点を変えたフォーラムを開催した。第1回の参加割合は大学が多いものの、高校からも高い関心を得ることができた。今後も高大双方における課題に関する情報共有や交流促進を図りながら、さらなる参加者数増を目指したい。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。</li> <li>高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。</li> </ul>	<p>(取組2) 会員大学情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの機関から発信されている大学の多様な情報を踏まえながら、大学コンソーシアム大阪の会員大学共通の案内について、対象者に応じてWebサイトやSNS、紙媒体を有効に活用して発信する。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>実施回数：1～2回／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用割合：会員大学数の80%以上の大学数／各年</li> <li>ホームページの該当ページの閲覧数：倍増／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>4回 (共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用割合：100% (39/39校)</li> <li>ページ閲覧数 5,952回 (1/31まで)</li> </ul>	<p>S</p> <p>今年度は、下記取組によって、事業進捗が当初の計画を大きく上回る結果となったため、大いに評価できる。</p> <p>コロナ禍の支援として、大学情報の収集が難しい状況を踏まえて、府内の高校2年生に向けて会員大学の紹介ブックレットを作成し、府教育委等の協力や会員大学の高校訪問時の持参などにより約7万部配布することができた。またコンソ大阪のHPを活用したオンライン共同大学説明会(大阪の大学「学び」WEBフェア)や大学の模擬授業が体験できる高校生応援プロジェクトを実施し、発信情報の拡充を図ることができた。</p> <p>高校生の進路検討に関するニーズ調査の結果を踏まえて、HP、ブックレットともに内容の精査とさらなる充実を図りたい。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
2. 単位互換プログラムのさらなる充実	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。</li> <li>各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。</li> </ul>	<p>(取組1) 単位互換事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター科目とオンキャンパス科目のそれぞれの特長を活かしながら、学生ニーズを踏まえ、大学コンソーシアム大阪で試行的に実施してきた事業の科目化などによってプログラムを充実させる。</li> <li>プログラムによっては、アフターコロナにおいてもオンラインによる授業を継続し、参加にあたっての地理的・時間的制約を払拭させ、参加者の拡大を図る。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>実施回数：1回/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数/各年</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し校数：52.6% (20/38校)</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度は、協定校がさらに3校（大阪信愛学院大学、大阪体育大学、宝塚大学）増え、また南大阪地域大学コンソーシアムとの広域単位互換に関する協定を新たに締結したことで、制度の拡充が図れたことは高く評価できる。</p> <p>一方で、学生送り出し校数が数値目標を達していない点については、今後より幅広い大学の学生への周知努力が必要である。</p> <p>(科目数：計379科目、出願者数：計858人、南大阪4人を含む。)</p>

※赤字の表現は今後の部会及び推進委員会で検討を行う

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
<p>3. キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化</p>	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。</li> <li>留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組1) 就業体験型インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各大学で実施されているインターンシップとはひと味違う就業体験の機会として、産官との連携による特徴的な受け入れ先の拡充や、低年次学生のキャリア支援も意識したプログラムの充実に継続的に取り組んでいく。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>実施回数：1回/各年</p> <p>※数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数/各年</li> <li>参加学生数：150人以上/各年</li> <li>受入企業数：100社以上/各年</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送出校数（出願者数）：48.7%（19/39校）</li> <li>参加学生数：131人</li> <li>受入企業数（エントリー数）：93</li> </ul>	<p><b>B</b></p> <p>今年度はコロナ禍も一定落ち着き、昨年に比べ実習者数が約1.5倍（R3年度：89人）、受入企業数は約1.6倍（R3年度：59企業・団体）とコロナ前の水準に戻りつつある状況である。</p> <p>また、事前・事後研修では学生のより良い学びのために、開催形式を工夫したことで、学生の満足度も高い結果となった。</p> <p>この度の三省合意の改正を受け、現在インターンシップの在り方が大きく見直されており、当プラットフォームのプログラムもそれに応じた対応をしながら、継続的に学生の就業体験や低年次学生を意識したプログラムを提供していきたい。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。</li> <li>学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。</li> </ul>	<p>(取組2) プロジェクト型インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決型のプログラムであるため、まとまった期間や日数を確保しやすい低年次学生を主な対象として、理解ある民間企業やベンチャー・スタートアップ企業等も視野に入れた連携先を開拓する。</li> <li>また、プログラムの成果についても広く発信することで、大学コンソーシアム大阪会員大学の学生の意識の高揚につなげていく。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>プログラム本数：2件以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年</li> <li>参加学生数：30人以上/各年</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>2件</p> <p>(舞洲PJ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送出校数：15.4%（6/39校）</li> <li>参加学生数：17人</li> </ul> <p>(起業インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生送出校数：17.9%（7/39校）</li> <li>参加学生数：13人</li> </ul>	<p><b>S</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>舞洲スポーツイノベーションPJでは、舞洲プロジェクトやプロスポーツチームと連携して約5か月間にわたる特色あるプログラムを提供できた。今回は、学生の提案をスポーツチームのホームゲームで実践する場を設けるなど、学生にとって得難い機会を提供できたことは評価に値する。</li> <li>起業インターンシップは、大阪市やKANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 連絡協議会と連携して、昨年よりもさらに内容の充実に努め、実施できた。</li> </ul>

	<p><b>(取組3)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。</li> <li>・学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。</li> </ul>	<p><b>(取組3) オンラインプログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインの特性を活かし、学生や企業が気軽に参加できるプログラムとして、また、遠隔地や特殊な現場など参集型では難しかった職業を学ぶ機会として、その効果を明確にしなが、受け入れ先や内容の拡充を図る。</li> </ul>	<p><b>(取組3の活動指標)</b></p> <p>実施回数：3回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年</li> <li>・参加学生数：60人以上／各年</li> </ul>	<p><b>(取組3の活動実績)</b></p> <p>4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生送出校数： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 12.8% (5/39校)</li> <li>第2回 23.1% (9/39校)</li> <li>第3回 20.5% (8/39校)</li> <li>第4回 12.8% (5/39校)</li> </ul> </li> <li>・参加学生数： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 10人</li> <li>第2回 14人</li> <li>第3回 12人</li> <li>第4回 9人</li> </ul> </li> </ul> <p>※会員外の参加（第1回…1名）は除く</p>	<p><b>A</b></p> <p>低年次学生を主対象としたキャリア支援プログラムを継続実施した。今回も大阪商工会議所や大阪市の積極的な協力を得ながら、産官学連携ならではの特色あるプログラムが展開できている。</p> <p>また、学生送出校数も今年度は数値目標を上回るなど、会員大学の学生による活用の幅が広がりつつあり、今後も内容の拡充に努めたい。</p>
	<p><b>(取組4)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時宜に応じたキャリア支援の課題に産官学が連携して対応している。</li> <li>・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。</li> </ul>	<p><b>(取組4) キャリア支援事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援に関する大学のニーズや課題、取り組み内容を共有し、外部組織とも連携しながら、学生や担当教職員向けの支援策を産官学が協力して検討する。</li> </ul>	<p><b>(取組4の活動指標)</b></p> <p>開催回数：1回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年</li> </ul>	<p><b>(取組4の活動実績)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教職員セミナー 3回開催</li> </ul> <p>※府・南大阪地域大学コンソーシアムと共催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加大学数 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：41.0% (16/39校)</li> <li>第2回：25.6% (10/39校)</li> <li>第3回：12.8% (5/39校)</li> </ul> </li> </ul> <p>※R4年4月に大学コンソーシアム大阪においてキャリア支援準備委員会を新たに発足。</p> <p>R5年度以降は、三省合意改正の動向を踏まえながら、インターンシップ推進委員会と共同で検討を進める予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三省合意改正を踏まえた企業動向と今後の対応策に関する意見交換会 1回開催</li> </ul>	<p><b>A</b></p> <p>大阪府・南大阪地域大学コンソーシアムとの共催により、就職困難層（発達グレーや障害学生）の就職支援に関する大学教職員セミナーを開催した。会員内外の大学や専門学校等関係者も多く参加し、共通課題としての関心の高さがうかがえた。（第1～第3回の参加者数：延べ104人、うち会員大学からの参加者数延べ50人）</p> <p>官学連携によって、大学だけでは対応が難しい課題に取り組むことができ、双方にとって有意義なものとなることができた。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
4. 国際交流の活性化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。</li> <li>・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。</li> </ul>	<p>(取組1) 他国・他地域との国際交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで大学コンソーシアム大阪で実施してきた台湾との交流事業の実績を踏まえて、対象を教職員や学生に拡大し海外・他地域との交流も進めていく。</li> <li>・交流先の発掘や交流プログラムの企画・運営にあたっては、外部の専門機関との連携等によって効率的・効果的に取り組むこととする。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>交流事業数：1事業／各年（再開以降）</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流事業数：延べ5事業／計画期間</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>※再開方法について検討中。</p>	<p>評価なし</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決方策を考えるきっかけとなっている。</li> <li>・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組2) グローバル人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の専門機関との連携等により、効果的なアイデアを選択していく。</li> <li>・学生だけでなく、教職員や社会人の参加も視野に入れたプログラムを検討し、大阪・関西万博と連動する活動や学びが実践できる場を提供する。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座開催回数：2回以上／各年</li> <li>・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年</li> </ul> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座：2回 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;第1回&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者数：8大学17人（うち留学生2人）</li> </ul> </li> <li>&lt;第2回&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者数：8大学21人（うち留学生8人）</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・国流イベント：1回 <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪まちあるきツアー（3/30実施予定）</li> <li>企画学生（選出数）：13人（うち留学生2人）</li> </ul> </li> </ul>	<p>S</p> <p>講座は、年度のテーマを大阪・関西万博として2回開講した。第1回では（公社）2025年日本国際博覧会協会から協力が得られた。第2回はレゴブロックを使用した英語によるプログラムを実施し、留学生にも関心の高い内容とすることができた。このプログラムを通じて、国内学生と留学生が活発に交流しながらともに学ぶ機会できたことは評価に値する。また、国際交流イベントとして、新たに学生によるまちあるきツアーを3月に実施予定である。企画運営は会員大学の有志学生が行い、内容検討から実施まで主体的に活動が進められている。</p>

	<p>(取組3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。</li> <li>・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。</li> </ul>	<p>(取組3) 学生英語プレゼンテーションコンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に英語力を競うコンテストではなく、学生自らが社会的課題に取り組む方策を考え、提案する点を重視し、この点に対する評価軸を再確認しながら参画大学の拡大を図っていく。</li> </ul>	<p>(取組3の活動指標)</p> <p>開催回数：1回／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出場チーム数：15チーム以上／各年</li> <li>・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組3の活動実績)</p> <p>出場チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11チーム(7大学)</li> </ul> <p>参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者 32人</li> <li>・運営学生 6大学9人(うち留学生2人)</li> </ul>	<p>B</p> <p>対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、広く観覧できるよう工夫を行った。講座と同様、(公社)2025年日本国際博覧会協会から審査員として協力を得ることができ、今後の連携に繋がる機会となった。</p> <p>参加状況として、初めて本コンテストに出場した大学が2校あった一方、例年の出場チーム数より微減、また今年度は留学生の発表がなかったことから、周知方法を精査のうえ、改善を図りたい。</p>
--	--	--	---	---	---

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
5. 地域連携の促進による大阪・関西の活性化	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。</li> <li>学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを大学コンソーシアム大阪の会員大学や自治体が共有している。</li> <li>大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。</li> </ul>	<p>(取組1) 地域連携学生フォーラム in Osaka</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携のノウハウの共有や学生の地域連携に対する意識向上の機会という目的は維持しながらも、フォーラムの企画・運営や発表、傍聴といった多様な参加形態を通じた交流の拡大を図る。</li> <li>特に学生による企画・運営では、毎年の運営内容への変化を恐れず、学生の主体性を重視して取り組むこととする。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>開催回数：1回/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内</li> <li>参加する行政・事業所数：15団体以上/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>1回開催(2022年10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表大学数：4/39校 (10.3%)</li> <li>運営学生：6/39校 (15.4%)・13人</li> <li>行政・事業所数 3団体</li> <li>関連学生ワークショップの開催(2022年12月) 5/39校 (12.8%)・16人</li> </ul>	<p>B</p> <p>昨年度は来場者を限定し開催したが、今年度は広く開放し51人の参加者があった。また、当日の様子を広くライブ配信し、後日のYouTubeの再生回数は60回に上った。また発表後の交流会には任意で観覧者も参加するなど活発に交流ができた。なお、数値目標に設定しているフォーラムの参画大学数については、学生等の様々な参画方法から判断することが望ましいとして、目標の考え方を改めることとした。また、フォーラムのスピンオフ企画として、大阪・関西万博をテーマとした学生ワークショップを12月に開催し、5大学16人が参加するなど、フォーラムを派生させた取り組みにも着手できた。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。</li> </ul>	<p>(取組2) 地域連携情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体ニーズや情報収集、ネットワーク形成の場として開催を継続しながら、自治体や地域で活動しているキーパーソンの話題提供などによってプログラムを充実させ、大学の参加を拡大する。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>開催回数：年1回以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内</li> <li>参加する行政・事業所数：10団体以上/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>1回開催(2023年2月)</p> <p>&lt;参加者数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員大学 3/39校 (7.7%)・5人</li> <li>自治体 6人</li> <li>中間支援組織 6人</li> <li>一般 1人</li> <li>計18人</li> </ul>	<p>A</p> <p>今年度より、地域の様々な主体間の情報・意見交換や、ネットワーク構築を目指して、地域連携にまつわる様々なテーマによるサロン形式の交流会を新たに開催した。キックオフとなる今回は「大学のボランティアセンターの取組について考える」をテーマに開催し、活発な意見交換や情報交換会が行われ、サロンの発展が期待される内容とすることができた。</p>

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
6. 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化	<p>(取組 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学のニーズに応じた研修を実施している。</li> <li>研修講師を担える人材の育成が図られている。</li> </ul>	<p>(取組 1) 各種研修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学職員を対象とした初任者 SD 研修については、蓄積されてきたノウハウを活用して継続していくこととし、大学が共通して抱える課題や PF 形成大学のニーズに沿った研修についても開催を検討する。</li> <li>これらプログラムの拡充にあたっては、委員の負担軽減やプログラムの質の保証を担保する。</li> </ul>	<p>(取組 1 の活動指標)</p> <p>実施回数：2 回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員送り出し大学数：会員大学数の 25% 以上の参加大学数／各年</li> </ul>	<p>(取組 1 の活動実績)</p> <p>5 回 (初任者 SD 研修 3 回、ID 研修、ICT に関する FD 研修)</p> <p>&lt;初心者 SD 研修&gt; 教職員送出大学・参加者数 第 1 回：15/39 校 (38.5%) 37 人 第 2 回：11/39 校 (28.2%) 23 人 (他、会員外 2 大学 2 人) 第 3 回：8/39 校 (20.5%) 18 人 (他、会員外 1 大学 1 人)</p> <p>&lt;ID 研修&gt; オンラインで展開</p>	<p><b>S</b></p> <p>初任者 SD 研修、インストラクショナルデザイン (ID) 研修において会員大学の教職員が講師を担い、当プラットフォームならではの研修が実施できた。 特に ID 研修は、オンデマンド形式を採用し、会員大学職員に広く活用いただけるような工夫を行った。</p>
	<p>(取組 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。</li> </ul>	<p>(取組 2) サロン・ド・大学コンソーシアム大阪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者のニーズを把握しながら、大学教職員が直面する喫緊の課題を取り上げ、現場の課題に即した情報交換や意見交換の場を継続して提供していく。</li> <li>テーマ設定の工夫などによって多くの教職員等の参加を促進し、ネットワーク形成の場としても機能させていく。</li> </ul>	<p>(取組 2 の活動指標)</p> <p>開催回数：3 回以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員大学の参加率：会員大学数の 60% 以上の参加大学数／各年</li> </ul>	<p>(取組 2 の活動実績)</p> <p>3 回 参加大学・参加者数 第 1 回：11/39 校 (28.2%) 21 人 (他、会員外 7 大学 9 人) 第 2 回：10/39 校 (25.6%) 22 人 (他、会員外 5 大学 5 人) 第 3 回：11/39 校 (28.2%) 16 人 (他、会員外 4 大学 5 人)</p>	<p><b>A</b></p> <p>昨年度に引き続き、今年度も「学生支援」をテーマとしてケース対応や課題を共有する機会を提供できたほか、大学職員の能力開発に焦点を当てたテーマも新たに設定した。また、より多くの参加者を得るため、オンラインのみならず、対面とオンラインのハイブリット形式を採用するなど、開催形式も参加者の利便性に配慮した工夫を行った。これによって、会員大学の教職員のほか、全国からも広く参加者を得られ、参加者間のネットワークの構築に寄与できたことは高く評価できる。</p>



課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
7. 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充	<p>(取組1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。</li> </ul>	<p>(取組1) 学生ボランティアの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各事業に関わる学生ボランティアや学生サポーターの受け皿を大学コンソーシアム大阪事務局で一本化し、大学コンソーシアム大阪の企画・運営委員会において学生活動の支援方法を検討のうえ、各部会で実施する事業等において対応可能な形で、学生が主体的に活躍できる場を創出する。</li> </ul>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>既存事業やその他事業へ学生ボランティア参加：2事業以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <p>R4年度：5事業  (地連学生フォーラム、学生英語プレゼンコンテスト、国際交流イベント(大阪のまちあるき)、ACTによる学生座談会、高校生向けイベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生参加数： R4年度：延べ47人</li> </ul>	<p><b>S</b></p> <p>地域連携や国際交流のイベント運営への有志学生の参加の他、R3年度より新たに発足した学生ボランティアチーム「ACT」による学生ならではの自由な発想によるイベント開催に繋げることができた。コロナ禍で活動自粛を余儀なくされた学生が、この取組を通じて主体的に活動する面白さを発見する機会となっており、さらに参加学生数、活動の質ともに拡充すべく継続予定である。</p>
	<p>(取組2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。</li> </ul>	<p>(取組2) 連携調査・研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学間や産官学が共通して取り組むべき課題や事業拡充のための調査・研究を実施し、その結果を各大学での教育や研究、学生支援、大学経営、また地域活動等に活かしてもらう取り組みを進める。</li> </ul>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上/各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携調査・研究実施数 延べ15件/計画期間内</li> </ul>	<p>(取組2の活動実績)</p> <p>R4年度：4テーマ  (調査：薬物、高校生ニーズ、リフレイト)  (研究：中期計画推進に係る提案型研究事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施数 R4年度：4件</li> </ul>	<p><b>S</b></p> <p>高校生の進学検討に関するニーズ調査を実施し、結果を踏まえて高校生の進路選択にかかる動向把握やHPや小冊子等での発信情報の精査に努めた。また、R4年度はプラットフォームにおける特色ある社会人向けプログラムの検討にあたり、各大学でのリカレントプログラム実施に関する実態調査を進め、大阪商工会議所と連携を図りながら、今後の検討に向けての第一歩を踏み出すことができた。</p>

	<p>(取組 3)</p> <p>・産官学連携による課題解決体制が整備されている。</p>	<p>(取組 3) 地域課題に対応した取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府内地域連携プラットフォームの枠組みにおいて、大阪地域における高等教育グランドデザインに係る協議を継続しながら、その実現に向けて大阪の産官学連携による取り組みを推進する。</li> <li>・これによって、大学だけでは完結しない課題や産官学協働による取り組みが求められる課題について、取り組み内容の検討や役割分担等、具体的な推進体制を構築する。</li> </ul>	<p>(取組 3 の活動指標)</p> <p>実施事業数 1 事業以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施事業数 延べ 5 事業／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組 3 の活動実績)</p> <p>R4 年度：4 事業</p> <p>(大阪 PF 公開講座、FD 研修、リカレントプログラム、活動報告会)</p>	<p>S</p> <p>公開講座では大阪の課題や注目度の高いテーマと大学の特色を掛け合わせた公開講座をリレー方式で開講した。また IT スキルアップのための現職の社会人に向けたオンラインプログラムを提供するなど、産官学において注目度の高い内容を取り上げ、機会提供できたことは評価に値する。また、大阪 PF の活動を広く発信、また活動に対しての意見を募る活動報告会を開催し、参加者から期待される事項等について把握・整理することができた。</p>
	<p>(取組 4)</p> <p>・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。</p>	<p>(取組 4) 大阪・関西万博との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年大阪・関西万博開催に合わせて、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会と連動したシンポジウムの開催や大学コンソーシアム大阪会員大学による大阪・関西万博のテーマに沿った活動の企画を行うなどの連携事業を展開する。</li> </ul>	<p>(取組 4 の活動指標)</p> <p>実施事業数：2 事業以上／各年</p> <p>※数値目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施事業数：延べ 10 事業／計画期間内</li> </ul>	<p>(取組 4 の活動実績)</p> <p>実施事業数：3 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生英語プレゼンテーションコンテスト</li> <li>・グローバル人材育成講座</li> <li>・地域連携学生ワークショップ</li> </ul> <p>※別途、万博協会、大阪万博推進局、近畿経済産業局と事業連携に関する意見交換を実施。</p>	<p>S</p> <p>大阪・関西万博開催まであと 3 年となる中、既存事業の中で万博に関連するテーマを積極的に取り上げ実施できた。会員内外において万博に対する機運が徐々に高まっており、さらにネットワークを広げた具体的な連携事業の創出に繋げることができている。</p>

8. その他				<p>(活動実績) 日本インターンシップ学会 関西支部研究会との共催 (2022年12月開催)</p>	<p>A 今回は「インターンシップにおける連携の在り方を考える」をテーマに、消費者教育推進事業の取組に関する大阪府消費生活センター及び大学コンソーシアムと連携事例の紹介や、三省合意改正に伴う今後のインターンシップの在り方について、企業や大学コンソーシアムからの見解を踏まえた意見交換を行い、それぞれが有する強みを生かした有機的な事業連携の方策について共有することができた。</p>
--------	--	--	--	---	--